

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		新入職は、理念やケアのモットー が頭に入るように努力中である。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		都市型のホームにて、地域性に欠けるのが悩みではあるが、1つの方法としてこちらから行事のご案内を出している。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	可能な限りゴミの収集場の掃除にも参加するよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議に地域の方にも参加して頂きホームの成果等をお伝えしたり、様々な会合に係わりながら地域に貢献しているつもり。人材育成の一環としても実習生の受け入れもしている。	○	今年から中学生の職場体験学習も受け入れている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で読み上げ振り返っている。結果も全員で改善に取り組んでいる。	○	今後どのようなかたちで時間をつくっていくかを検討していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告を行い、意見交換し、話し合っサービス向上につなげている。	○	2ヶ月に1回の運営推進会議。やっと定着しつつあるので、今後もこの調子で……
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	協力は得られにくいですが、介護相談員の訪問等で関係づくりを継続している。又、市町村でも相談しやすい方に☎で助言頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会、身体拘束廃止委員会、事例検討会に取り入れている。又個別に必要な方に少しずつ繰り返し説明している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員を決めて、あれ？と思ったことを気づきの記録として残し、運営会議・ミーティング等で話し合い振り返り防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料や退去となる場合、介護度が重くなる時や看取りの件、医療連携体制等は特に重点をおいて丁寧に説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の苦情、不満・言動を中心にその都度記録して、そう言わせるもの・そうさせるのは何？とミーティング・カンファレンスで話し合い共有して、ケアに反映させている。		市の介護相談員の来訪や利用者に応じて(主治医、市役所の生・保担当者)対応している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームで手作りしている広報誌に近況報告をコメントして毎月の請求書と同封している。又、金銭出納帳はその都度確認して、サインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族は意見、不満、苦情は言いにくいと認識し、こちらから声かけて希望が言いやすい雰囲気づくりを心がけている。更に要望・苦情処理箱を設置して、運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、個人面談を設けている。管理者は、職員の顔を見て、悩んでいないか？？思い考えて声かけて、話しやすいように心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員が、自由に休みがとりやすいように、又働きやすいように事前に希望を聞いて勤務を組んでいる。職員同志も互いに調整しあっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者がわかった時点で、募集して研修期間を設けて、利用者への負担軽減に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修には、なるべく偏らないように、一覧表を作成して参加を促している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会にも入り、研修等に参加して、質の向上に取り組んでいる。	○	他のグループホームに見学を具体的に計画していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	コーヒー・お茶を飲んだりして、職員同志で、会話してリラックスできる雰囲気づくりを心がけ、場所や時間の工夫をしている。年に1回親睦を図るため職員旅行を実施している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自、自分にあった目標を持ち、資格所得している。そのために(試験前後の休みの提供)を支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談し、入居者の生活状況や身体機能について把握し、ホームでどのように過ごせるかよく聴いて検討している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	いつでも時間をかけて家族と向い合い問いかけ言葉かけに工夫して、安心して話して頂ける様に傾聴している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを確認し、見極めながらサービスの利用につなげている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ず、見学して頂く。見学の時間は皆と一緒にお茶を飲んでいる時間に合わせて来て頂いて本人の様子をみながら家族と話し合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症の〇〇さんではなく、最後まで人としておつきあいさせて頂きたいと思っています。出来ない事をお手伝いさせて頂き、私たちは人生の先輩として教えて頂いている関係を大事にしていきたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	うれしい事もつらい事もお伝えして一緒にご家族と支えられるように共有している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係が平行移動できるように、電話・手紙でまめに連絡を取り合っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけホームの入居前と同じ生活ができるように考えている。かかりつけ医・美容院などいままで通りのところを利用して頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の集う所には、必ず職員はいるようにしている。会話が弾みやすいように間に入って調整している。又、トラブルが発生しても未然に防ぎやすいし、大事にもなりにくい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された時は面会に行き、オムツの補充・洗濯物のお手伝いをしている。いつでも声を掛けやすいようにこちらから訪問したり、電話相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をする中で、いつもにない言葉・表情などを大切にひとりひとりの思いを把握する様に努めている。又、日々の記録を参考にして本人本意に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	教えて頂ける範囲で過去の情報を大切にしている。その後も面会時の家族からの情報収集を行い、記録して本人を知ることが深めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各自の生活のリズムを大事にし、出来ることはしていただけるように気づくのを待って見守る。声かけしてあわてないように気配りしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いをケアに活かせるように意見を頂いている。又、作成後にも教えて頂くことは他の入居者にもいえることでは?と思い、検討している。	○	様式を変更して日々の記録を大事にし、それを基にアセスメントしている。職員の意見やアイデアが反映されやすいので、今後も継続していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直し、評価を行っている。6ヶ月ごとにカンファレンスでアセスメントを行い、現状に即した計画を作成しているつもり。変化のあるときは、その都度見直し修正している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、その日の言動を記録しそれに対して職員は何を思い気づいたかをも記録して情報の共有化に務めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の都合により通院はホームで対応している。医療連携体制も充実している。 (定期的な2回/1ヶ月の訪看・看取り・電話での連携等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	数少ない機関しかないが、入居者の要望に応じて、よりよく豊かな生活がおくれるように支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のグループホームにも相談したりして助言を頂いている。又、逆に連絡頂いたりして、日々の相互関係を大切にする事で、他サービス利用時につなげられると思っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	地域包括支援センターとの日程調整が仲々合わず、運営推進会議の出席も1回のみだが、入居者の相談等には、心良く対応して下さっているのもより良い関係づくりを努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を利用して頂いている方もいる、その際はホームでの生活の情報提供も行っている。又、受診結果等もご家族に報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームに理解を示して頂ける医師はいらっしゃる。適切な助言と指示の基で生活を支えている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約により、2回/1ヶ月の訪問や電話での相談に応じて頂いている。又、夜間の急変時は協力病院の往診もある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会することで精神的なフォローにつながればとも考えて入院期間中の面会や洗濯物等を行っている。病院・家族の情報を基に話し合いながら退院の計画を具体化している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化することが予測されるケースは早期に話し合いを設け、今後のことを検討している。必要に応じて看護師を含めて契約する場合もあるが家族の思いは変化することも念頭にいれ支援につなげている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護師による訪問の回数を増やす等して連携を図っている。契約内容には、夜間・休日の対応や死亡時の確認等も含まれている。状況に応じて、職員のストレス軽減、力量を見極めて対応していきたい。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までとできるだけ変わらない生活が継続できる様にプライバシーを保護しながら、知り得た情報の伝達を行いダメージを最小限にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは見えない事、ケアは毎日当たり前のようになっている事があるがゆえにとっても危険である。職員間でのその時に言える雰囲気(教えて頂いてありがとうございます)をつくっている。気づきのメモとして、言葉の暴力につながらないか、無記名で投函する箱を準備している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の言葉を尊重して、外出、食べたいものを一緒に考えて実現できるようにしている。(できるだけ、言ってこられたその日、その時・・・その思いを大事にしたいから)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間の遅い方、また、外出を好む方、外食を好む方、毎晩赤ワインをコップ一杯飲まれる方、毎日入浴される方等、その方の思いのままにできるだけ寄り添って支えている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着る物は自分で選んで頂いている。口紅をさす方、必ず鏡を見る方、職員の服や持ち物に敏感な方とさまざまである。それぞれのおしゃれを大事にしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考え、行ける日は買物にも行ったり食材を切ったりしている。食文化も大事にして、だんご作り等は入居者に教えて頂きながら一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒屋に行ってお酒を買ってきたりしている。それぞれの嗜好物を名前を書いて預かって、本人の食べたいときにお出ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用している。個別にRHパンツのみの方、夜間のみテープ式のオムツ着用等対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日わかしているので、入浴したいときに入浴して頂くようにしている。準備から着脱・洗身と一人の職員が対応している。又、拒む方は浴槽が見えるようにして、足でも温めましょう等と声かけの工夫で入浴につなげている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない日は添い寝したり、温かい飲み物でおしゃべりしたりして配慮している。日中の過ごし方の工夫はとても大事である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの生活にもほとんどの人が慣れて来ている。又、職員は時に流されがち？その人らしく過ごしているように見えるものの、1年を通してみると、果たしてそれでいいのかなあ？と考える点がある。	○	その人の輝く時間を1日5分でも、何でもいいので「楽しかった」と笑える日を積み重ねていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方等、個別に対応している。買物に行く際には、預かり金より小額お渡しして支払って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食、散歩等と出掛けている。天候や本人の体調を考慮したりして、気分転換をはかっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	可能な限りご本人の希望に添いたいと思い、「泊まりで温泉に行きたい。」と、かなえる為、お金を積み立てて実現に向けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は取り次ぎ、席を外している。また、入居者から電話をかけてほしいと要求された場合もかけて差し上げる。手紙も同様に速やかにお渡ししている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来て頂けるように、面会時間は決めていない。どんなに忙しくても挨拶だけは立ち止まってするよう心掛けている。そのことで、来訪しやすい雰囲気になればと思っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会の内容に身体拘束についてとして取り入れて、身体ばかりでなく、心の拘束ということも考えて学びにつなげている。又、今年、気づきの記録も作成し振りかえりとして活用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関につけていたチャイムも外して、日中は全て自由の状態にしている。見守りしながら、入居者の思いを大事にして、一緒に散歩につなげたり、さりげなく声かけしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者がいらっしゃるところには職員も一緒にテレビを見たり、会話したりと過ごしている。夜間も巡視にて安全の確認をしている。全体が見通しよく、すぐ対応できる場所で待機している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	カーテンを工夫して目隠しにしている。包丁等は普通に管理していて、ハサミ等は先が丸いのを使ったりと、使用しても危険でない物を選んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	“ひやり・はっと”を活用し、事例検討として具体的に個別に予測されるリスクを話し合い、事故予防に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、蘇生術を教えて頂いたり、勉強会に救急法を取り入れたりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/1年の避難訓練を行っていて、近隣の住民の方にも声かけしている。(避難、誘導の確認や消火器の使い方)		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者に自由に行動して頂くことにより、予測されるリスクは個別に家族に話している。そのリスクに対して、ホームでのケアを検討し、自由に暮らして頂くことの大切さも含めて、説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の表情を観察したり、バイタルチェックをしたりしている。異変を感じたら、訪問看護ステーションに連絡し、助言頂いて様子観察したり、場合によっては受診につなげたりとしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容(用法・用量・副作用)が記されているものを綴じている。また、薬剤師訪問時に尋ねたりして、連携を図り、支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	手作りヨーグルトを毎日お出ししている。適度な運動も必要なので、運動や食事でも工夫している。また、個別で排便チェックを行い、必要に応じて浣腸等を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助を要する方には、お手伝いしている。毎食後の口腔ケアの声かけや、就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に刻んだり、トロミをつけたりしている。補食で高タンパクゼリーを購入したりしている。協力病院の栄養士の協力を得て、献立をチェックして頂いて助言をも、もらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは職員・入居者全員接種している。感染症予防にはうがい・手洗いの励行又、いつでも使用できるようにテキサント液を(トイレ、洗面台)に準備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事前、排泄後は手洗い徹底、うがいの励行。食材は毎日買い物に行き、その日の内に調理している。まな板・布巾のハイター消毒、冷蔵庫・冷凍庫の消毒掃除期限切れの点検を行い管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般の方との共有マンションでもあるので、ホームにご用のある方にはわかりやすいように案内板を設置して入りやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感に刺激を与えられるような、季節感も味わって頂けるように手作りのものや入居者の作品を飾っている。があくまでも家なので飾り過ぎないようにもしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファがあり、その時々々に気のあった利用者同士テレビをみながら会話が弾み楽しい居場所となっている。職員も横に座りいっしょに過ごすことも多々ある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	理念に基づきその人らしい部屋づくりに心がけている。馴染みの物使い慣れた家具、洗面道具、装飾品が持ち込まれて安心して過ごして頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房は適温に努めている。空気の入換えをしながら換気にも努めている。又、入居者の(暑い・寒い)の言葉にも耳を傾け調整をしている。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流しは低いのでリビングのテーブルに新聞紙を敷いて自立出来るように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の言動で混乱を招いた原因を探り、その方の生活や状況に応じて環境を整えている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭に野菜を植えている。草取り、種まき、収穫を楽しまれている。ベランダの花、野菜と一緒に植えて成長を話題にしたり、水やりを日課にしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年で満6年になります。3年・4年と長くなる方もいらっしゃいます、身体状況は低下していきませんが、その分、その方のことも深く知っています。そして、職員もスキルアップしてきました。入居者との外出・外食したり、好きなTV番組をみるなどの共感できることがとてもうれしいです。これからも、入居者の要望をかなえられるように又、当GHで出会えたことにお互い感謝できるホームづくりに励んでいきたい。